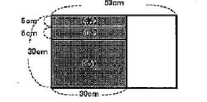
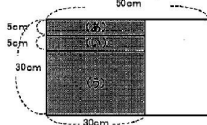
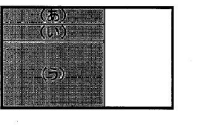



本時の展開		
学習活動	指導の意図・留意点	教材教具
<p>・問題を読み、課題をつかむ。</p> <p>よしおさんたちは、図画工作の時間に本立てを作ることになりました。</p> <p>本立てを作るのに使うのは、下のような板です。この板は、たてが30cm、横が50cmの長方形です。</p> <p>長方形(あ)、(い)、(う)は、□の部分を下図のように切って作ります。板の残りの□の部分はあまりが出ないように切って、合同な2つの形(え)、(お)を作ります。</p> 	<p>・全体で一読し、大切どころに線を引かせる。その後、各自もう一度読み取る。</p> <p>・前時の課題と変わっているところに気付かせる。</p> <p>※1</p> <p>・前時に作った、長方形とは違う形のものを作ることを約束する。</p> <p>・合同な形は多くあることを伝え、様々な形に気付くことができるように意欲付ける。</p>	<p>・掲示用問題文</p> <p>・問題プリント</p> <p>・画用紙</p> <p>・本立て(実物)</p>
<p>・グループで話し合い、本立ての側面はどうすればいいのか考える。(グループ活動)</p> 	<p>・定規や分度器、コンパスを用いて、合同な形を見つけられないか、考えるよう助言する。</p> <p>□ 合形にしてもいいな。</p> <p>□ 他に変わった形はないかな。</p> <p>□ コンパスは使えないかな。</p> <p>・ホワイトボードを用意し、説明を書かせる。</p> <p>・説明し合う活動を軸にするため、時間を制限する。</p> <p>※2</p>	<p>(児童)</p> <p>・ものさし</p> <p>・三角定規</p> <p>・分度器</p> <p>・コンパス</p> <p>・ホワイトボード</p>
<p>・発表のルールを確認し、発表の練習をする。</p> <p>□ 聞いていて分かるように説明する。</p> <p>□ 大きさが分かるように辺の長さや言葉を使って説明する。</p> <p>□ 設計図を鏡のり紙で描いたりしないで使用する。</p>	<p>・図形を説明する言葉(辺、角度、長さ、等しい)を使って説明すると良いことを伝える。(机間支援)</p>	<p>・ルール(掲示用)</p>
<p>・グループごとに発表し、他の班の説明を聞きながら、考えを書き取る。</p> 	<p>・うまく書けない児童には、どこが分からないのか考えさせ、質問させる。</p> <p>・実際に他の班の発表を聞く中で、分かりにくい表現や言い方に質問させる。</p> <p>・時間がなく、途中までしか説明の仕方が分からなかった班が出た場合は、途中まで説明させる。その後、設計図を見せ、説明の続きを他の班の児童に考えさせる。</p> <p>・掲示されたホワイトボードを比べ、説明の良いところに気付かせる。</p> <p>・分かりやすかった説明は、どこが良かったのか紹介させる。</p> <p>※2</p>	<p>・ワークシート</p>
<p>・聞き取りメモをもとに実際に設計図を描く。</p>		<p>・画用紙</p>
<p>・設計図をもとにして組み立てられた本立てを見て、どの班の設計図なのかを考える。</p>	<p>・実際に組み立てられたものを見て、自分たちの考えがどう反映されていくのかに興味をもたせる。</p>	<p>・児童の考えをもとに作られた本立て</p>
<p>・今日の学習で、分かったことを発表する。</p> 	<p>・言葉や数値を使って図形を説明することの難しさが分かるとともに、普遍性や利便性にも気付かせたい。</p>	<p>・ノート</p>

学習の評価

※1 問題文から大切な言葉を見つけることができる。

※2 図形の特徴について言葉を使って説明することができる。

(3) 成果について

①学力の向上

- ・見通しをもって課題に取りかかることができるようになり、問題解決につながった。(何を求められているのか、どう答えたらよいか考える児童が増えた。)
- ・問題文の大切どころに線を引く習慣が付き、題意の把握ができるようになった。
- ・答えの見積もりや、見当をつけてから計算する児童が増えてきた。

る児童が増えてきた。

- ・算数的活動の楽しさを体感できた。
- ・筋道を立てて説明することで、自分の考えが相手に伝わるのが分かり、伝えることの喜びを味わうことができ、学力の向上につながった。

②指導方法の工夫改善

- ・教員の授業に対する意識のもち方が、今まで以上に研ぎ澄まされてきた。
- ・思考が深まる算数的活動を積極的に授業に取り入れるようになった。
- ・問題設定の意図や効果を考えた授業づくりを心掛けるようになった。
- ・児童の気付きや感じたことから進める学習を大切にするようになった。

③学習意欲の向上

- ・児童が「分かってほしい」「できるようになりたい」と思う気持ちから、相手の考えに質問できるようになってきた。
- ・自分の考えをみんなに分かるように説明しようと努力するようになってきた。

(4) 来年度以降の課題について

全ての児童が「分かる」喜びを感じるころまでは達していない。児童の理解度に差があるのも事実である。個々に応じたきめ細かい指導がどこまで深められたかという点に課題が残る。その差を縮めるために身近な内容の教材・教具を取り入れた授業の構成も考えていく必要がある。より効果的な工夫をしていかなければならない。また日常生活に生かせる指導法の研究を継続して行うことが大切である。

取組事例③

「書く力を高める授業の研究」

～主体的に考え表現する力の育成を目指して～

平群町立平群東小学校

(1) 学校の状況について

4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果から、第6学年の児童の国語科平均正答率はA、B問題とも県平均を上回っているが、「目的に応じて資料を読み自分の考えを話したり、書いたりしているか。」「うまく伝わるように話の組立てを工夫しているか。」「考えの理由が分かるように気を付けて書いているか。」など表現活動に関する質問に対して肯定的な回答の割合が低いことが明らかになった。本校は、2年前より「書く力を高める授業の研究」を主題に取り組んできたが、4月に全学年に行った「書くことに関する児童の実態調査」でも同様の課題が挙げられていた。そこで今年度、次の2点を柱に各学年で授業

実践を行い、研修会や研究授業・協議を通して指導方法の工夫改善を進めてきた。

- 取材、構成、記述などの書く過程で、語彙の獲得や技能の習得に向けた手立ての工夫
- 伝える楽しさや喜びを実感し、書く意欲が高まるような評価・交流の場の設定

さらに、全国学力・学習状況調査から研究主題に関する項目を選択し、第2～6学年を対象に9月と12月の2回、実態調査を行った。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

各学年の取組（授業実践）の一端を以下に挙げる。

【第1学年】

1. 付けたい言葉の力

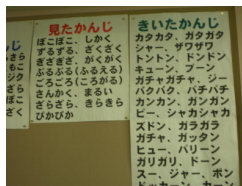
「特徴を表す言葉を集め、選択して書く力」

2. 指導の実際

単元名 「知らせたいな 見せたいな」

「飼育小屋の動物を観察し、その特徴を分かりやすく伝えよう」

- ・表現するためのいろいろな言葉を知り「ことばのポケット」を作る。(下の写真)
- ・小動物と触れ合い、ワークシートに絵を描き、状態や様子をメモする。
- ・「ことばのポケット」の言葉を使って、メモを基に見付けたことを項目（目、くちばし、足など）ごとに短冊カードに書く。
- ・短冊カードの内容を原稿用紙に書く。
- ・家の人に読んでもらう。



3. 成果、改善された点、児童の変容など

「ことばのポケット」は、聞いた感じ・見た感じ・さわった感じ・思ったことなどの四つのポケットに分けて作った。児童たちは積極的にたくさんの意見を出し、「ざらざら」など見た感じにもさわった感じにも入るものもあるということに気付いている児童もいた。また、授業以外でも、「こんな言葉もある」と言葉集めをしている様子も見られた。動物の様子を短冊カードに書く時には、「ことばのポケット」を見たり、それ以外のオノマトペを使ったりして文を書いていた。また、この単元だけでなく、作文や、生活科の観察カードでも、オノマトペを使って書く児童がいた。

【第2学年】

1. 付けたい言葉の力

「説明する題材に必要な事柄を集め、簡単な組み立てを考えて書く力」

2. 指導の実際

単元名 「観察名人になろう」



「ミニトマトの成長をおうちの人につたえよう」

- ・観点を明確に観察・記録する。
- ・伝える内容と組立てを考える。(付箋の活用)
- ・伝えたい事柄を選ぶ。
- ・記述する。モデル文を提示する。(右の写真)
- ・交流する。グループで読み合い、よかったところを伝え合う。

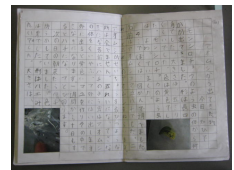
3. 成果、改善された点、児童の変容など

上述のような取組を進めた結果、例えば、具体性に欠ける説明文を書いていたA児は「観察の観点」や「比較の観点」を明確にして書く技能を身に付けた。そして、「分かりやすさ」を意識した説明ができるようになってきている。また、話が飛躍し一番伝えたいことの内容が伝わらない傾向があったB児は、「一番伝えたいこと」を付箋に書いて整理したり、書き出しを示したりしたところ、伝えたい事柄を取捨選択することができた。書くことに苦手意識をもっていたC児は、観察する部位と観点を明確にして記述するように指導した結果、書き方に変容が見られ、記述に要する時間も短くなった。学年全体の様子を見ても「相手を意識する」「分かりやすく伝える」「理由を付けて説明する」等が意識してできるようになってきていると思われる。

【第3学年】

1. 付けたい言葉の力

「相手や目的意識をはっきりとさせて、自分が伝えたいことを、相手により伝わるように文の構成を考えながら書く力」



2. 指導の実際

単元「『アオムシコマユバチ』の紹介文を書こう」「付せんを使って、書きたいことを整理しよう」

- ・調べたことや、分かったこと、考えたことなどを付箋に書く。
- ・付箋を並び替えながら、文章の順序を考える。
- ・互いに、書いた文章を発表し合い、相互に評価し合う。
- ・交流する中で、質問されたことや、指摘されたことを取り入れて、より相手に伝わるように推敲をする。

3. 成果、改善された点、児童の変容など

書くことが苦手だった児童は、相手を意識することで、意欲的に取り組むことができた。何から書けばよいのか分からず書けなかった児童は、付箋を使うことで、順序を考える作業がしやすくなり、楽しんで考えることができた。できあがった文を読み、感想を書いてもらうことで達成感を感じ、その後の書くことへの意欲につながったと考える。

【第4学年】

1. 付けたい言葉の力

「アンケートの結果から、自分の考えが明確に伝わるように構成を考えて書く力」



「結果」と「考えたこと」の記述を相互評価する児童

2. 指導の実際

単元名「生活を見つめて」

「生活の中で気付いた身近な問題について、調べたことが伝わるように書こう」

- ・調べたいテーマを決める。
- ・テーマについて調べるために必要な項目を考える。
- ・アンケートを作成し、結果をグラフに表す。
- ・グラフを見て、「結果」と「結果から考えたこと」を書く。
- ・「結果」と「結果から考えたこと」を相互評価する。
- ・構成を考えて、報告文を書く。
- ・調べたことを発表する。

3. 成果、改善された点、児童の変容など

「結果」と「結果から考えたこと」を区別して書いていなかった児童が、相互評価をすることで区別して書くことができるようになった。この学習を通して、相手に伝わるように書くにはどうしたらよいかを意識して書くことができるようになってきた。実態調査の「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしているか。」の肯定的回答が、38%（9月）から47%（12月）に上昇した。

【第5学年】

1. 付けたい言葉の力

「自分が伝えたいこと、相手が知りたいことなどを考えて発信する力」



黒板に掲示した評価の観点を基に、付箋に書いてもらった意見を見ながらグループで考えている子どもたち。よりよく伝わるように文章を改善しようと話し合っている。

「編集作業を通して、集めた材料を目的に合わせ整理し、加工して伝える力」

2. 指導の実際

単元名「工夫して発信しよう」

「校内放送で、『校内ニュース』や『学校の不思議』を全校児童に伝えよう」

- ・全校児童に知らせたいテーマを決め、知りたい情報や疑問に迫れるように情報を集めるための取材をする。
- ・取材で得た情報を基にテーマに沿って内容を絞り、より正確に伝わるように言葉を選んで原稿を書く。
- ・原稿を学級で発表し、他のグループとより正しく伝えられるための意見を交流し合い、それを考慮しながら原稿を書き直す。
- ・校内放送で、全校児童に発表する。

3. 成果、改善された点、児童の変容など

他のグループから付箋に書かれた意見をもった後、グループで話し合い、伝わりにくかったり難しい言葉だったりしたところをより伝わりやすい原稿にし、発表することができた。

【第6学年】

1. 付けたい言葉の力

「自分の考えを明確にするために、文章全体の組立ての効果を考えて書く力」



主張と根拠の整合性を相互評価する児童

2. 指導の実際

単元名「自分の考えを発信しよう」

『『平和』について考え、意見文を書こう』

- ・「平和を壊すものは何か」「なぜ争いが起こるのか」について自分の主張を考える。
- ・モデル文から意見文に何を書かなければいけないのかを読み取り、構成を考える。
- ・段落別に色分けした付箋を使いながら文章を組み立てる。
- ・完成した構成メモを相互評価し、修正する。
- ・できあがった構成メモを基にコンピュータで文集に仕上げる。

3. 成果、改善された点、児童の変容など

書き進めていく中でずれていった自分の主張が、相互評価を行うことにより修正できた。また、友達の意見文を読むことで、表現の仕方を取り入れることができた。

自分の意見を相手に分かりやすく伝えるという学習を通して、普段の授業の中でも自分の意見を発表する際に理由を明確に述べたり、より説得力のある意見を述べたりすることができるようになった。それに伴って発表すること自体にも積極性が見られるようになった。

(3) 成果について

○文種や題材に応じて必要な語彙を使って表現する力が高まった。書くことに抵抗感をもっていた児童が楽しんで意欲的に書けるようになってきている。

○評価や交流活動を通して、読み手（聞き手）にとって必要な情報、分かりやすさなどを考え、表現する力が高まった。相手の反応から達成感を得られる学習活動になった。

○実態調査の結果から、国語科の学習に関する児童の意識の向上が明らかになった。

例えば第6学年の「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」の質問では、4月→9月→12月と段階的に肯定的な回答が増え、4月から12月では20ポイント以上の向上が見られた。

実施した全ての学年を通じて、全体の84%の項目で児童に意識の向上が見られる結果になった。学校全体で、本研究に取り組んだ成果

といえる。

(4) 来年度以降の課題について

今後はさらに、次の2点を課題に継続的に取り組んでいきたい。

- 『書くこと』の年間指導計画表の見直しと改善（指導の系統性の明確化）
- 個に応じた指導・支援の工夫

取組事例④

「学ぶ楽しさ分かる喜びを子どもたちに」

平群町立平群西小学校

(1) 学校の状況について

自尊感情が低く、「どうせやってもできない」と思い込んでいる子どもたち。学習意欲がもてず、休み時間が終わってもなかなか教室に入らない子どもたち。まず教職員が丸となって生活指導に取り組んだ。チャイムに合わせて教室に入るようになったとき、次の取組は、授業が楽しくて分かったという喜びがもてるように育てることだった。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

①学習規律・規範意識の確立

まず一つのことを守るように促した。「チャイムがなったら、教室に入る。」という学校のきまりを守るよう教職員みんなで呼びかける。授業の始まりは、運動場で遊んでいないか確かめ、授業中は廊下に児童がいないか気配に耳を傾ける。教室に入らない児童を見つけたら、数人の教職員で声をかけるようにした。人が集まる場では、「話を静かに聞く」ことに重点をおいた。整列の仕方や号令のかけ方などを工夫し、整然とした雰囲気になってきている。教職員丸となって取り組んできた成果である。年間を通じて「あいさつをする」「きまりを守る」「時間を守る」の三つを生活目標として、何度も繰り返し呼びかけている。

②基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化

学校での児童の様子を保護者や地域の方に知ってもらい、よりよい生活習慣が身に付くように家庭にも協力をお願いした。今年度のフリー参観は三日間。児童の様子を保護者同士で知らせ合ったり、地域の方から連絡してもらうことができた。「西っ子の学校生活」や「家庭学習の手引き」を家庭訪問時に配布。毎年内容を見直し検討する。教職員一致した考えのもと、学校での決まりや家庭での学習時間、生活の仕方などについて保護者に直接話し、理解と協力

を得ている。宿題の提出率もよくなった。家庭や地域との連携の成果である。

③学習意欲の向上

「ようこそ先輩」と題して活躍している西小の先輩を紹介している。体操選手として中学校や高校でがんばる先輩の新聞記事を職員室前に掲示している。その他のスポーツや音楽、技能で活躍する先輩の話聞いて自分もやってみたいとの声が聞こえることもあり、将来へ希望をもち学習意欲も湧いてくる。

ゲストティーチャーによる授業では、さつまいも菊などの栽培を地域の人と一緒にすることや、書の名人に来てもらってガラスの器に墨で字を書くことを教わった。本物に触れる喜びがあり、出来映えもよく、意欲につながっている。

中学校教員による「出前授業」を3月に行う。中学校の授業に期待と意欲、安心感をもつことができた。

委員会活動や集会活動では、全校児童の前で発表したり集会を企画運営したりする機会を多くもち、やり遂げることで自信をもつことができた。大とんどやゲームをする西っ子大会では、地域のお年寄りとの交流もあって、児童の態度がとてもよくなっていることやがんばっていることをお年寄りに褒めてもらうことができた。高学年よるクリーンキャンペーンも毎年行っている。通学路の清掃活動を保護者や地域の人と一緒にすることで、新聞で紹介してもらったり地域の人に認めてもらったりして自尊感情を高めることができた。

④基礎学力の向上に向けた取組

・朝学習（あすなろタイム）

毎朝始業前の15分間、読書・計算問題（百マス計算）・漢字練習などに取り組む。そのため、職員の朝の打合せは短時間で終わるように工夫し、担任は朝学習の指導にあたる。教員は各クラス2人体制で入り、個別指導も十分できる。時間は短いですが、集中して取り組んでいるので静かな学習風景である。計算は速くできるようになったという結果も出ている。

・夏休み学習教室

夏休みのプール開放日に合わせ、希望者を対象に補充学習を行っている。少人数なので分かりにくいところも自分で質問できることや複数の教員が指導に当たるので個に応じた学習ができることになり、理解も深まった。

⑤授業実践

・アサーショントレーニング

表現の仕方が分からず、暴言を吐いてしまう、人を傷つける言葉がつい口から出てしまう児童。その一方で、ガ

